

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

佐野高校の使命(2013～2015)

Education is not the filling of a pail, but the lighting of a fire ~William Butler Yeats

- ① 自立心と進取の気概の育成
- ② フェアなルール感覚の育成
- ③ 多文化共生・国際理解教育の推進

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 授業重視で、「充実した授業、役立つ授業」をめざす。生徒の授業アンケート、職員間の公開授業や研究授業や授業づくりや授業の構造化をめざす校内研修を実施し、個々の教員の授業力改善を期し、「授業の佐野高」をめざす。
※生徒アンケートでは、授業に工夫を感じるという回答が66%と高くない。平成28年度には80%を目標とする。
- (2) 生徒にはクラブ活動・生徒会活動等を強く奨励する一方、学校での学習を強め、家庭学習の習慣が身につくように環境を整えていく。
※教科、学年、進路が連携し、家庭学習時間確保等の具体的プログラムを作成する。
- (3) CS等を通じ、早い段階からキャリア教育を行う。
- (4) 国際教養科の独自化をめざし、活用できる実践的な英語教育と国際理解教育を一層推進する。
※ 積極的交流、資格試験合格率アップをめざす。
※<1・2年生英語検定全員受験の2年目、昨年以上の全員受験の効果が出るように、フォローアップ体制も強化して実施する>
※オール・イングリッシュの授業を多く実施する。
- (5) 平成27年度 学校経営推進費事業により、第1学年・第2学年の普通教室18教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター（電子黒板機能付き）を導入、さらに自習室を中心に無線LAN環境を整備することでICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
※4年制大学 希望進路達成率（第2志望含む）を平成29年度末には85%を達成する。

2 5つの基礎力を育成する事で自立し、自律できる生徒の育成

- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。
※加入率が70%の状態が続いているが、80%をめざす。生徒の意識が学校に向き、行動力、規範意識を育成し、生き生きとした生徒を育成する。
- (2) 国際交流、地域交流、を強力に推進し、動きの中で生徒を育成。「人権感覚」、「国際理解」、「ESD」等を体験させ、課題解決能力を獲得させる。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、その中から、生徒自らによるコミュニケーション力育成、課題解決能力育成を期す。
- (4) 読書活動等を奨励し、こころ豊かで、多様性を受容できる生徒を育成。 ※授業での活用を活発化させる。

3 シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり

- (1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育も十分に将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
※学校生活に対する満足度は従来から高く、これは維持していく。
※進路結果に対する満足度を調査していく。（3年時当初の進路第1希望の達成度を調査）
- (2) 当たり前のこととして、遅刻・服装指導等の基本的な生活習慣、清潔で美しい学校作り、自宅学習時間の確保を考える。
※遅刻や欠席を生徒のシグナルと捉え、生徒支援の手法を持って接する。
※公共の場（廊下、階段等）を徹底的に清掃する。 ※教科、学年、進路で具体的プランを作成する。
生徒会活動を支援し、行事や校内環境整備が活発に行えるようにする。課題解決能力、コミュニケーション能力、自尊感情等の育成をめざす。
- (3) 情報発信を重要視。可能な限り多くの機会をとらえ、情報発信し、学校を理解してもらうように努める。
※保護者、生徒、受験生の知りたい情報を発信できるよう校内組織を確立。
※全教職員、全生徒が学校の広報を担う意識を持ち、自尊感情の育成を行う。
- (4) 新たな学校づくりへの挑戦
強みを生かし、イノベーションを提案できる組織づくりを進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成28年1月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(1) 生徒向け、保護者向けともに今年度実施分から質問項目をリニューアルした。 ○新たに設けた設問等の回答状況について</p> <p>①「悩み事を親身になって受け止める先生が多い」60.4%（生）65.7%（保） ②「国際理解・人権についての学び」＜肯定感＞75.5%（生）87.6%（保） ③「部活動と学習の両立」＜肯定感＞72.9%（生）78.0%（保） ④「学校はバリアフリー」＜肯定感＞42.5%（生） ⑤「教え方を工夫している先生が多い」63.4%（生徒のみ）</p> <p>①生徒に向き合う姿勢で親身に支援をおこなう教員増が評価されていると思う。 今後も学校全体をあげて困っている生徒の支援に力を尽くしたい。</p> <p>②国際理解・人権教育についてはユネスコスクールの取組とも相俟って、比較的好意的に高く評価されている。今後とも推進していきたい。</p>	<p>第1回目 平成27年6月6日（土）（協議委員の発言より）</p> <p>○ 佐野高校が大切にしている「第1志望達成率」を私も最も重視したい。また、国際教養科の特性を大切にしてほしい。</p> <p>○ 平成28年度入試に対して、中学校現場では混乱している。第1志望、第2志望の記入も中学生レベルでは正しい判断ができにくいことが心配される。国際教養科での理系選択ができる方向は理解できたが、中学生には違いがわかりにくいのではないかと不安な判断をさせないためにも「国際教養科のめざすところ」をしっかりと提示してほしい。</p> <p>○ 挨拶運動に力を入れているのは良いことだと思う。地域との良い関係作りのためにも積極的に挨拶できるようにしてほしい。</p> <p>第2回目 平成27年10月31日（土）（同じく協議委員の発言より）</p> <p>※ 授業参観日なので、委員とご一緒に校内を巡視し、授業と施設を見ていただいた。</p>

<p>③部活動と学習の両立が本校における重要な課題であることは言うまでもないが、どちらにも積極的に意欲をもって取り組んでいる生徒が増えてきたことは嬉しいことである。今後ともさらに両立がうまく進むように支援体制の充実を図っていききたい。(自習室の拡充やE-ラーニングなどの機会)</p> <p>④バリアフリーについては、築50年を迎える校舎がほとんど本校において、喫緊の課題である。部活動や体育実技あるいは通学途上の怪我、または湿布位の治療による手術などによる身体的特性によって和式トイレが利用できない生徒や階段による昇降が困難である生徒がこの一年増加した。そのために、生徒の意識調査を行ったが、「バリアフリー度」は極めて低く、半数以上が否定的な回答を寄せた。次年度以降法的な取り決めによる「合理的な配慮」の提供が必要となる状況も鑑み、ソフト面や学校の心がけ等で対応できるものばかりではないので、なんらかの対策が必要とされる。</p> <p>(2) 昨年度から指標として⑤「教え方に工夫をしている先生が多い」という設問については、昨年度66%の肯定的な回答状況だったが、今年度は63.4%に減少している。一方、個々の先生への「授業アンケート」によると「工夫をしている」先生は全体で80%(第2回アンケート)の評価であり、若干の乖離が見られる。学校全体として「多い」との認識は後退しているため、次年度以降の課題としたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物については老朽化が激しい。怪我などが懸念される。(協議委員連名で教育委員会にアピールしたほうがよい) ○ アクティブラーニングの手法を取り入れた授業が多く、活発でよかった。 ○ 様々な取り組みを行っておられるが、広報の量が少ないのではないかと? <p>第3回目 平成27年1月30日(土) 協議委員の発言より</p> <p>※ 平成28年度の経営方針に関してご意見が集中した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ SGHの取組み申請(平成29年度予定)に関して、「今日ではグローバルは当たり前となった。さらにその先何を付加するのか?」卓越的なその価値が求められている。そこについては、大学の置かれている状況も同様である。大阪大学もSGUの取組みに苦慮している。情報共有とともに連携をしていきたい。 ○ 今行われている国際理解やユネスコスクールの取組みも、もっと広報していきべきではないか? ○ 中学校からは高校生の姿が一番の広報になる。本校の生徒の校外での姿は憧れの対象となっているという趣旨の発言をいただいた。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 授業の構造化を推進する	(1) (あ)「言語活動の充実」を図るなかで、生徒の学習意欲を高める研修やその他工夫を行う。 (い)学習向上グループを構成し、教科横断的な授業研究や研修等を実施する。各グループのリーダーは再任用教諭がつとめる。	(1) (あ)授業に対する工夫度に対する肯定感の向上(H26 66%→80%をめざす) (い)研究授業集中期間を年3回、研修会を学期に1回実施する	(1)→◎ (あ)第1回授業アンケートで、「授業に対する生徒の評価-教材活用」で、「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると78%となる。 第2回は80%となり目標達成した。 (い)学習向上グループを6構成しチームリーダーとマネージャーをもとに訪問先を決定し訪問を実施、結果報告を「学習する空間作り」研修2015と題して2月10日、24日両日にて実施。各班から約30分の報告を受けた。
	(2) 学習改革 学習時間の増加	(2) (あ)2018年度、2019年度に予定される高大接続テストに対応できる学力をつけるためのカリキュラムを開発する。 (い)生徒の学習意欲を向上させるメソッドの開発を行う。(ユニバーサルデザインを取り入れた学びの空間づくりを行うなど) (う)高校生として学習する方法や習慣を身につけるための手段を講じる。(週末課題や自習室開設など) (え)キャリア教育を通じて、学習の動機付けを行う。	(2) (あ)6月までに新しいカリキュラムを作成し、学習に関する「佐野高校スタンダード」を作成する。 (い)授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」の項目が3.3以上(今年3.04) (う)学習診断の機会に学習時間やその他生徒状況を把握する。	(2)→○ (あ)平成28年度カリキュラムは週当たり32時間となり教育委員会への届も済、「佐野高校スタンダード」作成に向けて、学習に関する価値観をすり合わせる事が求められている。28年度早期に具体化。 (い)第1回授業アンケートの「授業に興味・関心を持つことができたと感じている」は、3.05 第2回は3.07となり昨年度より増加する。 本年度は昨年度末の研修視察の結果を導入して、第1学年の教室のみ実験的に黒板周りのレイアウトをUD化し、各教室共通仕様とした。好評なので全学年分購入・設置。 (う)自習室を利用する生徒が増えていた。週末課題は1学期の課題を確実に終えることができた。2学期も同様であった。また3月実施のPTA主催の春期講習会にのべ200人超の2年生が参加。
	(3) 英語検定等の取組みの強化	(3) (あ)英語検定については、準2級・2級の全員受験を実施する。またより実力のある生徒にはTOEIC、TOEFL等へのチャレンジをサポートする。英語検定については、教科の授業において指導とサポートを実施する。 2年目の全員受験を効果的に進め、英語検定の定着とスタンダードを確立する	(3) (あ)英検受検者 年間のべ1000人超過をめざす。 2級取得者には、準1級受験の個別指導を進める。	(3)→◎ (あ)第1回(6月)英検は、2級合格22名、準1級合格者2名。 第2回(10月)英検は、2級合格8名(1年1名)、準1級合格者1名(2年1名)。 第2回目から外部講師に委託し「準1級受験講座」等を開き、生徒の頑張りをサポートしている。 現3年(68期生)の3カ年の結果 準1級 3名、2級61名、準2級203名 IELTS6.0取得1名。
	(4) ICTや教育産業のコンテンツの活用による質の高い授業と講習	(4) (あ)平成27年度 学校経営推進費事業により、第1学年・第2学年の普通教室18教室及び特別教室等に短焦点プロジェクター(電子黒板機能付き)の導入し、自習室を中心に無線LAN環境を整備する。 ICTや教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。		(4)→△ (あ)1月末に機器が納入された。 プロジェクトチームによる活動が始まり、活用のため講習会を2回実施した。

<p style="text-align: center;">2</p> <p style="text-align: center;">5つの基礎力を育成する事で自立し、自律できる生徒の育成</p>	<p>(1) 国際交流 【対人基礎力・処理力】の伸長</p> <p>(2) 生徒会活動 【対人基礎力・対課題基礎力】の伸長</p> <p>(3) 部活動 【對自己基礎力・思考力】の伸長</p>	<p>(1) (あ)国際教養科の専門的な国際交流は現状を維持発展させる。普通科における交流は生徒会中心の国際交流員会での取組みを強化する。また、海外修学旅行についても調査研究を進める。(佐野高校スタンダードとしての修学旅行・海外研修を創る)</p> <p>(い)ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行うとともに、校内においてもその取組みが共有財産になるようにする。</p> <p>(2) (あ)限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活発化させる。</p> <p>(い)佐野支援学校との交流などに取り組めるようにする。</p> <p>(3) (あ)部活動の奨励はもちろんだが、学習活動とのバランスについて丁寧に指導する。</p> <p>(い)部活動生徒への自尊感情育成を通じて連帯感を高め、学校の求心力として育む。そのために定期的に全部員会合などの機会を設けて指導する</p>	<p>(1) (あ)普通科生徒の国際理解教育への肯定感向上 (昨年度54%)</p> <p>(2) (あ)生徒会活動への肯定感 (80%以上)</p> <p>(3) (あ)部活動を通じて学習指導を試み、部活動参加者の学習状況の把握を行う。学習との両立ができているとの肯定感70%をめざす。</p>	<p>(1)→◎ (あ)今年度もイギリス・オーストラリアの語学研修を実施し確かな成果を上げた。またネパールスタディツアーは地震により中止を余儀なくされたが、3月18日からカンボジアスタディーツアーを実施。国際理解教育や人権教育の機会が適切に設けられているという評価は生徒全体の4分3を記録し、概ね肯定的な受け止めと判断できる。</p> <p>(い)ユネスコスクールとして東北震災ボランティアや北関東水害復興ボランティアへの取り組みが見られた。また、夏季休業中にはユネスコ国内委員会の派遣事業でカンボジアへの派遣に選ばれるなど、ユネスコ部としての活動がめ立った。</p> <p>(2)→○ (あ)学校教育自己診断における生徒会活動への肯定感は88.3%となっている。生徒会活動を通じて人間関係や集団作りが良好に取り組まれている。</p> <p>(い)取り組む事が出来なかった。</p> <p>(3)→◎ (あ)部顧問が学習との両立に力を入れる指導をする事に取り組んだため、家庭学習時間も増えるなど良い効果あらわれた。学校教育自己診断の中では部活動と学習の両立について、生徒の肯定感は72.9%であり、保護者の目から見ても78%の肯定感が見られた。</p> <p>(い)ルール指導からマナー指導に変わりつつある。</p>
<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">シチズンシップ教育を推進し、地域の生徒の希望をかなえる学校づくり</p>	<p>(1)規範意識の醸成と成長を促す</p> <p>(2)「来てよかった学校」づくり</p> <p>(3)積極的な広報</p> <p>(4)新たな学校づくりへの挑戦</p>	<p>(1) (あ)遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。</p> <p>(い)高校1年生の母校訪問を含め、中学生から「あこがられる」高校生としてのあり方を追求する。 *ボランティアや出前授業など</p> <p>(2) (あ)従来からの学校生活に対する高い満足度を維持する。</p> <p>(い)卒業時に進路満足度調査を行い、進路獲得の満足度を調査する。</p> <p>(う)入学時の学力調査との比較を行い、伸び率が最大になるように学習産業を活用したデータをもとに指導する。また、学習環境調査も活用して、学びの環境づくり(人間関係や施設など)に尽力する</p> <p>(3) (あ)全員で広報する体制をさらに強化する。</p> <p>(い)広報スタイルをさらにブラッシュアップする。さらに広報媒体(チラシ・リーフレット)の刷新を行う。</p> <p>(う)新高校入試に対応して、中学校教職員向けの説明会を実施する</p> <p>(4) (あ)「課題解決推進委員会」を「将来構想委員会」や「将来戦略委員会」への名称変更とその委員会を中心に新たな校務分掌体制による機動的な学校運営を推進する。</p>	<p>(1) (あ)年間総遅刻数が2000回を目標とする。年間総欠席者数(H25約4000)を減少させる。</p> <p>(2) (あ)学校教育自己診断アンケートによる満足感90%以上をめざす。</p> <p>(い)3年次8月の第1志望の進路希望先に対する達成度(3月末時点)</p> <p>(3) 学校説明会や体験授業の参加者がのべ900人をめざす。</p> <p>(4) 新たな提案(新規事業)の数が年間5件以上となるようにする。</p>	<p>(1)→△ (あ)結果として昨年度を下回ることはできなかった。欠席数も結果として4000は下回ったが、大幅減少には至らなかった。</p> <p>(い)挨拶をする生徒の数が増えているように思われ、このまま地道な声かけ指導を続けていく。</p> <p>(2)→○ (あ)自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の両方を合わせると80.2%となり、達成はしていないが、良好な数値である。保護者の認識は90%以上が肯定的。</p> <p>(い)大学受験結果等が出揃ったところで調査する。</p> <p>(う)学習産業を活用したデータを分析し、入学時からの学習状況や学力到達度の変化をもとに面談や受験相談を実施した。このことにより、生徒の学力と受験先とのミスマッチを防ぐのに大いに役立っており、現在までのところ受験総数が昨年度よりかなり少なくなっているが合格者数は若干上回っている。</p> <p>(3)→◎ (あ)今年度の説明会や体験授業への参加者は保護者も含めて1257名であった。目標を大きく上回った。</p> <p>(い)新しい学校パンフレットを作成</p> <p>(う)新高校入試に対応して、志願するときの注意点やセールポイントを整理した。</p> <p>(4)→△ (あ)「問題解決推進委員会」と名称は決定したが、今年度分掌横断的な取り組みもなかったため、出番がなかった。今後は運営委員会を中心に運営が可能だと考える。また、次年度はSGHプランニング委員会を設立し、調査研究を行わせたい。新しくした校務分掌体制は2年目を終え、順調に機能するようになってきた。また、再任用教諭をリーダーとした「学習力向上グループ」の取組も予想以上にスムーズに進んだ。今後さらに運営改善に努めてさらに機動的な学校運営を推進したい。</p>